（郵便物認可）　（本號六面）　（日曜日休刊）　（定價金三錢）

時事新報

時事新報定價
一枚金三錢○一箇月前金一圓五十錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓十二錢○左ニ掲クル各地ニ於テハ郵便費倶ニ不要
長崎（内本社ヨリ直接郵送スルモノハ此限ニアラズ）
●東京●横浜横須賀●神奈川●藤澤●大磯●小田原●熱海●清水●靜岡●濱松●豊田●豊橋●大坂●京都●大津●草津●伏見●名古屋●桑名●四日市●津●松坂●山田●仙臺●盛岡●高知●下ノ關●長崎●若松●福岡●久留米●高崎●小諸●岩村田●上田●宇都宮●熊谷●八王子●千住●越ヶ谷●秩父●巡査●加須●鶴岡●千葉●佐倉●東金●八幡●船橋●市川
●他所ハ郵便物集配官ノ國所ハ同シク郵便送料不申受錢
時事新報廣告料（前金）一行ニ付

	一行廿四字詰	一日限	二日以上	七日以上	十六日以上
貴一行	十行	錢	錢	錢	錢
三十一行以上	十行	八錢	七錢	六錢	五錢
	九行	錢	錢	錢	錢
	八行	六錢	五錢	四錢	三錢
	七行	五錢	四錢	三錢	二錢
	六行	四錢	三錢	二錢	一錢
	五行	三錢	二錢	一錢	五厘
	四行	二錢	一錢	五厘	三厘
	三行	一錢	五厘	三厘	二厘
	二行	五厘	三厘	二厘	一厘
	一行	三厘	二厘	一厘	五毛
	半行	二厘	一厘	五毛	三毛
	三行	一厘	五毛	三毛	二毛
	二行	五毛	三毛	二毛	一毛
	一行	三毛	二毛	一毛	五厘

時事報報

新日本國に入るの準備

我輩は日本國の文明富榮を希望して片時も之を心に忘れざる者あり但し我輩は限り特に此の希望を有するにはあらず苟くも日本國人として此日本國に緣あるものにして其内國に在ると外國に在ると問はず離か此希望と有せざるものあらんや日本國人ふして日本國の文明富榮を希望するの心い其地位居所の如何に由て毫も厚薄の相違なしと云て差支ゐからん若し人ありて日本の文明富榮は何樣の點よりまで達するを以て滿足するやと問はんには我輩は歐米の文明國と同地位に立つを得ば足りぬと答へんのみ蓋し人間の文明富榮には際限あるべからず際限なき文明富榮を求むるに此方より何程と限りを置くは聊か不都合のやうなれども徒らに大聲を放つて到底出來べからざる相談を求むるは我輩の甚だ好まざる所なるがゆゑに先づ我々の生涯は我々の力にて爲し得べき程度と計りて我々は其事の成るを見てみずから滿足をそれより以上の事はこれを子孫に讓りて可あらんと信ずるのみ

日本國を歐米諸國と對等の國柄に爲さんと欲するにさて顧みて内を見れば文明に必要ゝ事物に乏て何や不足する所のもの千と以て數ふべく又萬を以て數ふべし斯る不足勝ちの中ゐていまれと決めるに彼是前後の區別を要せざる程の譯柄なれども先づ國會を開いて政事を民議に委ね全國を開放して内外人と雜居せし究鐵道と郵設して交通の便を大にする等の事は蓋し何をも急を要するの事柄たるに相違あるまじく近來時運の日々月に進歩すると共に國會開設の期も間近に差掛り今日い既に中間僅かに三年を餘すに過ぎず彼の條約改正の事も何れの點よりまで運びたるか未だ詳細と知らずといへども内外の時勢に徴するに早晩治外法權を撤去して日本全國と打開き雜居雜婚商賣製造寺院を建て田地を買ふ等内外人共に勝手次第の時節到來するは思ふに今より三四年を出でざることあらん又鉄道布設の事も近來頗る日本國人の注意と惹起其布設れ一日も早からんことを欲し其線路の一里も長からんことを欲するは情なるもれゝ如之今日の有樣を以て後來と推すに今より三四年を出でずして南は九州より北は北海道に至るまで全國一通りの鐵道脈を通ずるの日の到らんこと蓋し必然の勢なるが如く斯くの如く日本の文明進歩に重要の事件と爲す國會開設、内地雜居、鐵道布設の事の如き皆より明治十九年以前の日本を顧みたらんには雲泥の相違も甚あるまじきの想あるべし況や必定なり其相違する所即ち文明進歩の跡ありと思へば我輩は一日も速かに廿三四年以後の新日本を見るを樂んで老の脚に至らんとするを知らざるなり

然るとも明治廿三四年以後の日本國さらしめんとするは公も私も今日より況日本國さらしめんとするは公も私も今日より一切の事物を今の有樣の儘も保存して明治廿三四年の春を迎へ此時一時にソレ國會が開らけたぞソレ内地雜居が始つたぞソレ鐵道が延びたぞと沙汰したりとして日本國人が十分に時勢の變遷を應去て國も利も身も益もとる變恰い尚ほ未だ整頓せざることもあらんかとの掛念ありとせれば今日は當りて此準備を急ぐと土用の炎天に氷を持運ぶと一般瞬時も油斷せべからざるものあらん其私の準備に屬するものは人々の一身に覺悟すべ況所もして事柄も亦千種萬端なるべし唯其眼目とする所は兎角時勢に後れざるを免ひるに在り而して其公の準備に屬するものもも一個人の準備と同じく事柄の千種萬端なるべし唯其眼目とする所は兎角時勢に後れざるを免ひるに在り而して其公の準備に屬するものもも一個人の準備と同じ

第千三百三十七號

明治十九年七月廿六日　月曜日
舊丙戌六月廿五日　（丁亥）

日出午前五時四分　日入午後七時八分
月出午前十時二十分　月入午後二時三分
滿潮午後零時十六分
（西暦一千八百八十六年）

官報

○大藏省告示第六十八號
明治十七年（九月）第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ發行スル該證券見本一萬圓五千圓千圓五百圓ノ四種一枚宛北海道廳府縣廳及日本銀行本支店ヘ下渡ス
明治十九年七月二十四日　大藏大臣伯爵松方正義

○農商務省告示第十四號
東京農林學校ノ位置ヲ駒場ニ定ム
明治十九年七月二十四日　農商務次官　吉田清成

○告示第六十五號
日本橋區坂本町舊避病院ヲ東京府臨時病院分院トシ虎列刺病ノ外他ノ傳染病患者ヲ入院セシム
明治十九年七月二十四日　東京府知事　高崎五六

●虎列刺

流行地	發病者	新舊死亡
京都府	七月二十日 十三人	十九人
但シ上下兩京區ニ新患十人新舊死亡十二人		
廣島縣	同 四十九人	二十人
神奈川縣横濱區七月二十一日 七十三人		五十九人
三重縣	同 二十四人	十人
山口縣	同 三十五人	十八人
神奈川縣横濱區七月二十二日 八十二人		四十三人
大坂府	同 百九十七人	百四十人
但シ四區西成郡ニ新患百五人新舊死亡七十五人		
京都府	同 六人	七人
但シ上下兩京區ニ新患三人新舊死亡三人		
兵庫縣	同 五十五人	三十八人
但シ神戸區ニ新患十三人新舊死亡十四人		
岡山縣	同 三十六人	十七人
廣島縣	同 四十四人	十三人
和歌山縣	同 十七人	十三人
愛媛縣	同 七十人	三十一人
三重縣	同 二十二人	十三人
富山縣	同 七十四人	二十九人
合計（廿二日）	新患六百三人新舊死亡三百四十四人	

○流行地外虎列刺　北海道函館ヨリ去ル二十一日秋田縣ヨリ入港セシ船中新患一人「群馬縣一昨二十二日二十三日新患三人同死亡一人」埼玉縣去る十七日二十一日新患三人「栃木縣去る二十一日新患二人石川縣去る十四日十五日及十七日十八日新患六人、新舊死亡三人」静岡縣去る二十日二十一日新患二人同死亡一人」愛知縣去る十九日二十日新患六人同死亡三人」青森縣去る二十日新患一人、同死亡三人」德島縣去る二十一日新患一人」島根縣一昨二十二日新患五人、新舊死亡八人」鹿兒島縣去月十三日より同十九日迄新患一人死亡
（以上本年七月二十四日官報）

●虎列刺

流行地	月日	新患	新舊死亡
神奈川縣横濱區	七月廿三日	八十七人	四十五人
大阪府	同	百六十七人	百二十人
但シ四區西成郡ニ新患九十二人新舊死亡六十四人			
京都府	同	十三人	九人
但シ上下兩京區ニ新患八人新舊死亡五人			
兵庫縣	同	五十人	三十人
但シ神戸區ニ新患十九人新舊死亡十三人			
岡山縣	同	二十九人	二十三人
廣島縣	同	三十六人	二十七人
和歌山縣	同	十五人	十二人
愛媛縣	同	二十九人	十八人
三重縣	同	十八人	二十三人
富山縣	同	百十九人	六十三人
山口縣	同	五十四人	十四人
合計		新患六百十七人	新舊死亡三百七十六人

（本年七月二十五日官報號外）

雜報

○朝鮮元山津通信　（七月十一日發）商人呼返し　先便より報道しさる如く今度朝鮮政府の命によりて露領浦潮斯德より歸國したる男女三名の内にて洋服を着用せる男は咸鏡道鏡城（元山居留地と距る九十里）の人にして十三歳の時父母に曉ひて浦潮斯德へ赴き專ら商業を營み居たる由なれど露國語を善せり他の二人は同人の叔父と叔母の由にて何れも此程陸路京城へ赴きたり○餓鬼　客月二十七日午後六時より居留地人の會議を開き居留地會と商法會議所とを合併の件其他總代役場を本願寺別院なる

発税延期　知

発税は來る

地の商況を

穆丸にて六千

金巾も同便に

買扣の変る人

出は平均二十

にコレラ病

なし居れり

○福島通信

過日も報道

十二部に分割

したる合同販

一致結合して

たる渡邊源兵

主義者を糾合

の結合を以て

反對黨は各村

則に戻れりと

ゐ認可と得て

び自由派は十

約を議定し三

と配付ゑたり

さば日ならず

福島教育會總

内ゐ同會を開

を改撰ゑたり

生演説會を開

天王生糸市　伊

市にて此市ゑて

大關係を有せる

出高は折返糸二

て相場い折返極

は二百六十圓よ

年の半頓ゐも至

取引なりしと云

の少ゐき事二は

たる事三は規約

（西方にては三四

の配布も調はず

丸森への街道開

川張村に其出張

く着手する筈ゐ

福島縣師範學校

縣令各課長新聞社

古川善兵衛尉吉

郡の所司代さり

郡三年間の公租

巖石と掘抜きたる

郡五十餘間村に

謝しさる人にて

が當年は其二百五

て同寺ゑて大法會